

文化財登録5周年記念

国士舘大講堂 の改修

国士舘大講堂は、2017（平成29）年に国登録有形文化財（建造物）となった。文化財登録5周年を記念して、資料室が所蔵する「国士舘大学大講堂復元保存図 昭和56年12月」から大講堂改修工事の記録写真を紹介する。

大講堂は1919（大正8）年に建設された後、幾度か改修工事が行われている。1981（昭和56）年の改修記録であるこの資料には、大講堂の図面や堂内照明のデザイン案と共に、大屋根の葺替工事後、施工業者から提出された工事中の写真が綴られている。





1958年葺替時の大屋根と鬼瓦



1958年に葺き替えた金属板（アルミ合金）葺の屋根



新たに銅板葺きとなった大屋根



新しくなった屋根を支える軒先の材木



工事中の堂内



大屋根葺替に先立って新調した正面戸



校章入りの鬼瓦



銅製鬼瓦取り付け



10号館屋上から見た大講堂

国士館大講堂は、1958年と1981年の2回、大屋根の葺替を行なっている。

この写真が撮られた1981年には、屋根葺替の他、漆喰外壁の塗り替え、破風などに銅装飾の追加、破風の下にある狐（木連）格子を新調した。堂内の照明も追加・改修している。

この工事に先立ち1980年には、正面戸・通用口戸・窓枠・網戸などの建具を、意匠は建設時のまま新調した。また1982年には、新たに大講堂の東西両脇に掲示板を設置している。この一連の改修工事により、大講堂は現在の姿となった。